

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所からずっと、地域とのつながりを常に意識し、また、個別対応に力を入れている。職員は、全体会や毎日の申し送りを通して共有し、理念を土台に日々の運営をしている。	法人の基本理念、私たちの決意、そしてグループホームの運営理念を基に、地域との関わりを大切に、法人内の異動があっても管理者を中心に職員間で統一したケアができるように取り組んでいる。理念は玄関にも掲示し来訪者に理解を頂いている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の公園へ出かけて子供との交流、散歩時のご近所とのあいさつ等。地区の獅子保存会が正月に来てくれる。夏の御祭りに子供みこしが来てくれる。地区の秋祭りには子供相撲に招待してもらう等。	開設以来、地域との交流が行われており、正月の獅子舞や地区のびんずる祭りの時の子供神輿の来訪、高校生との七夕交流、幼稚園、保育園との交流、地区の子供相撲大会に招待を受たりしている。ホームの納涼祭には沢山の来訪があり賑やかに行われている。また、ボランティアの来訪も多く利用者は楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の役員さんや民生委員さんと顔見知りになるように努めている。民生委員さんとは、運営推進会議の席上で、グループホームで行なっている様々な事例をお話しさせてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告などを通してサービスの現状を知ってもらい意見をいただいている。家族も大勢参加され、その中から色々ご意見をいただきサービス向上に活かしている。	家族、区長、民生委員、あんしん相談員、市職員、地域包括支援センター職員、ホーム職員により開催されている。家族には開催月ごとに参加を依頼し、家族が担当月には参加しておりホームの活動状況等を把握して頂いている。年6回奇数月に開かれており、その内の4回は隣接の有料老人ホーム内のデイサービスと合同で行われている。家族の参加が多いことから、知り合いのボランティアの紹介があったり、非常災害時の意見交換なども活発に行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には介護保険課、包括支援センターの担当者が参加しており、活動を知ってもらっている。直接通知を渡すことで顔見知りになれており、色々相談する機会がある。	市や地域包括支援センターとは常に連絡を取り合っており、市主催の勉強会にも職員が参加している。介護認定更新の代行申請も行っており、市の調査員の訪問調査時には同席し利用者の情報を提供している。月に1回市から派遣されるあんしん相談員1名が来訪し全利用者に声を掛け、利用者も元気に応じ、帰る時には報告も頂き、ケアに活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠はなるべくしないように努めている。外に出たい利用者には必ず付き添い、安全面の配慮をしている。3ヶ月に一度、全体会議を開き、課題を出し合い、気付き、ケアに活かせるように努めている。	ホームの理念とともに「身体拘束宣言」も玄関に掲げてあり、来訪者に理解を頂いている。法人内で身体拘束廃止についての研修会が開かれ、拘束のない対応に活かしている。ここ1～2年間、利用者の心身の状況や希望により退居者が多かったことから、新規の利用契約者も多いため馴染むまで一人ひとりに対する支援方法の検討を重ねている。帰宅願望の方がいるが、家族と一緒に外出したり、職員と散歩をしている。リスク回避のため夜間のみ利用者の動きで反応するセンサーを使用している方もいる。	

グループホームコスモスプラネット篠ノ井

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々のケアの中で見落としや思い込みがないか毎朝の申し送りのお互いに確認している。また、3ヶ月に1度、全体会議で課題を出し合い、全員で共有し、意識して防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	様々な利用者があり、これから制度を利用する方も出てくると思われ、必要性を感じている。法人内の包括や居宅との連携で、制度が活用できるようにしていきたい。内外の研修の機会も、利用したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時に内容を読み上げて説明をし、疑問点を尋ねて納得のうえで契約をもらっている。家族や利用者から尋ねられた時はその都度説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の意見や要望は可能な限り丁寧に聞くようにしている。面会などの機会に話ができる雰囲気作り努めている。ご意見箱を事務所前に設置している。また、利用者の日頃の会話等を意識して聞き取るようにしており、職員間で共有して運営に反映している。	親睦会として母の日と、納涼祭に家族会を開き大勢の参加を頂いている。5月に「父の日・母の日コンサート」を母体の法人のホールで開催し、ホームからその場所までは家族に送迎をお願いし、合唱団の歌やブラスバンドの演奏、食事会などにより親睦を深め、家族から意見や要望を聞くようにしている。新規契約の利用者もいるため、面会時には声掛けをし意見を聞くように心掛けている。利用者の様子は毎月お便りと生活記録でお知らせしており、家族から日々の様子が分かってありがたいとの声を頂いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のケア会議ではその都度職員からの意見を聞くようにしている。機会あるごとに個々の職員から気付きや提案を聞いて反映できるように努めている。年1回人事考課表の提出があり、意見を言いやすい環境に努めている。	月1回職員全員参加による会議を開いている。「ひやりはっと状況表」は日々書かれており、リスク担当者から報告があり、職員全員で検討している。利用者のつぶやきや職員の感じたことが「気づきノート」に書かれ、職員間で情報の共有をしている。法人として人事考課制度も導入されており、メンタルヘルスチェックやストレスチェックも実施されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	機会や要望があるごとに個々に懇談の機会をもうけ、意見や要望を聞き取るようにしている。また、日頃から意見を言いやすい関係作りにも努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は、希望者を募って受講の機会を作っている。また、コスモス法人内の研修が様々なテーマで年間に数回あり、全員が受講できるように勤務調整している。新人教育も、教育用の資料のもとに、リーダーが中心になって、実施している。		

グループホームコスモスプラネット篠ノ井

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の5グループホームとも毎月の連絡会や相互訪問して質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者にそれぞれ担当職員がついて機会ある毎に本人と向き合い、1対1でゆっくりと話をしたり、関係作りに努めている。また、可能であればその機会に生活歴などの聞き取りもして、全体で情報を共有して、ケアプランにつなげ、ケアに活かしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時、家族との面談で何回か話し合い、不安や要望を聞き、本人と家族の思いの違いを知り、ケアプランの中にも家族の意向として取り入れ、また、面会や行事の時に話す機会を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所申込から本人、家族との面接、ケアマネや利用サービスの事業者から情報収集している。本人や家族の思いや状況を確認して必要な支援を見極めてサービスにつなげている。コスモス内の地域連携室と情報共有している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活の中で信頼関係を築けるように努め、家族のように寄り添えるように心がけている。職員も人生経験の豊富な利用者から教わることが多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の生活記録で本人の様子を家族に知っていただくと共に、事ある毎に家族に電話で様子を話したり、面会時に可能な限り本人の気持ちを代弁して家族に伝えるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生活歴から本人の馴染みの人や関係を知り、面会をお願いしたり、外出時に馴染みの美容院へ行ったり、近所の人との交流もお願いしている。誕生日に外出したり、家族と共に祝ったり本人の望みを家族に伝え叶えられるように支援している。	住み慣れた地区や自宅での行事に外泊し家族と一緒に過ごされる方がおり、ホームへの帰りにはお餅やフキなど馴染みのものを持ち帰り、利用者全員で料理をし話に花が咲き、外の風を入れていただいている。家族と一緒に外出した時に外食をされる方もいる。馴染みの美容院でパーマをかけたり、買い物時に墓参りに行くなど、出来る限り馴染みの関係が継続されるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いの部屋を行き来したり、フロア以外の職員が関わらない所で交流できる場所もある。1,2階の利用者の交流やコミュニケーションのとりづらいう利用者との関係も取り持つように努めている。		

グループホームコスモスプラネット篠ノ井

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方は、コスモス内の施設や特養に行かれたが、面会に行ったり、担当者と連絡を取ったり関係性を大事にしている。毎年年賀状を送ったり、数年前の退所されたご家族から今も衣類やタオルなどを頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中から本人の希望や意向の把握に努めている。会話やエピソードから拾い出した内容を、介護記録に記入して、夫々の気付きを、ケア会議で出し合い検討している、	ユニット毎のリーダーは固定しているが、職員は2ユニットを移動しケアに当たり、日中と夜間の申し送りで利用者全体を把握し、「気づきノート」なども活用し利用者の希望や要望を職員間で共有しつつ生活に活かせるように取り組んでいる。男性利用者も雑巾縫いや洗濯物干しなどに参加している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族から聞いた生活歴を参考に、近所や親戚の方が面会に来られた時に聞き取るように心がけている。また、入所前の担当ケアマネからの情報ももらうようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活パターンを把握し、それに合わせたケアをするように努めている。本人の発する言葉や行動で気付いたことをケア記録やケア会議で日々のケアに活かし、ケアプランにも反映するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の生活の中から本人のニーズを引き出し、家族の意向もくみ取りながら担当職員、計画作成担当者が中心になってカンファレンス、モニタリングを行い、ケア会議で全体で検討の後、ケアプランに反映している。	職員は1~2名担当しているが、2ユニット対応出来るようソフトを組み、全員を把握している。長期目標は6ヶ月、短期目標は3ヶ月毎に見直している。3ヶ月に1回、計画作成担当者が入居者の個別申し送り票を活かし、管理者や担当職員でケアプラン会議を開いている。家族からは面会時に希望や要望を聞き、プラン作成時に活かしている。利用者の状態に変化が見られた時には随時見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活の様子や発言等をありのままケア記録に記入している。気づきを「気づきノート」に記入して全員で共有、毎日の朝の申し送りやケア会議で検討しケアプランへと反映させている。昼夜の様子を申し送り簿で次の勤務者へつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望により、外泊や外出の支援、買い物の同行。また、歯科や専門外来なども状態を知る職員が同行するようにし、必要に応じてできる限りのニーズに応える様にしている。		

グループホームコスモスプラネット篠ノ井

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所に中央公園があり、散歩に行くと小さな子供との交流ができる。地域の方と散歩の時に立ち話ができる。地区の行事への参加のお誘いをもらい、出かけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関であるクリニックの医師が毎日往診に来て、利用者の健康状態を診ている。必要により家族との話し合いも持っており専門医の紹介へとつなげるなど適切な関係を築いている。	利用契約時に協力医による往診もあることを説明し、希望をお聞きしている。以前からの訪問診療の医師が昨年9月から法人の常勤医師となったため、ホーム専属で毎日往診があり異常が見られた時には随時相談することが出来ている。スマホを活かし職員間でグループラインにより申し送り時の様子を流し全職員が把握したり、異常時には医師への連携も素早く行われている。月1回、訪問歯科衛生士の来訪があり、口腔ケアについての助言をいただき、歯科医師への連携もスムーズ行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	クリニックの担当の看護師が、緊急時の対応として24時間連絡が取れる体制が出来ており、利用者全員の様子も把握している。いつでも相談できる。また、併設の有料老人ホームの看護師の応援ももらえる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院との連携でスムーズに入退院ができる関係が出来ている。病院関係者との情報交換にも努めていて、早期の退院を目指している。入院中は面会や洗濯物の支援もしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に「重度化の指針」の説明をし、同意を得ている。利用者の心身の状態は家族に説明しており、事業所の力量を理解してもらった上で、家族や利用者が終末期をグループホームで迎えることを希望したときは医師や双方で充分に話し合いをした上で、看取りの同意を得ている。	心身の状態や希望により、最近、退所者があることで新規利用者も多く、契約時に重度化された時の希望も家族から聞いている。開設からの9年間で5名の看取りが行われ、昨年度も看取りが行われた。重度化した時に家族の気持ちの変化もあることを踏まえ、医師から説明いただき、家族、職員で話し合い、納得がいく支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡体制や急変時の対応について事務所に掲示してあり、職員は常に有事に備えられるように心得ている。また、応急手当普及員の資格者が2名おり、年1回は隣の有料老人ホームと共催で、AEDの使い方講習や救命講習会を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、昼間・夜間想定での避難訓練を実施。有料老人ホームと共同で訓練しており、緊急時の連携もとれる様に確認しあっている。2階の利用者は非常階段からの避難も実施している。地域との防災協定も結んでいる。水害に備えての避難路も確認している。また、訓練時、地元消防団の方の見学参加もお願いしている。	年2回昼間と夜間想定で避難訓練を行い、そのうち1回は消防署員の参加の下、救命講習も行われている。非常時に備え、ホームには応急手当普及員資格者が2名おり、常に資格更新に努めている。運営推進会議でも災害対策については話題に上っており、地域の協力が得られることが確認できている。有事に備え、介護用品や備蓄も用意されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の個性や特性に合わせた声掛けや対応をしている。スタッフ同士がお互いに夫々の声掛けや介助の仕方を見て気付きあい、指摘しあって適切なケアにつなげている。	新規利用者もおり排泄介助や入浴介助などは利用者と職員の馴染みの関係を大切にし、利用者の希望に応じて同性職員で対応するように配慮している。ホームとして「ユマニチュード」を実践し、利用者の「人間らしさ」を尊重し続け、一人ひとりの状態に応じたケアを提供している。声掛けや声のトーンも聞こえずらいから大きな声を出すのではなく、横でさりげなく声掛けするなどプライバシーに配慮した対応を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせた声掛けをするように心がけている。複数の選択支を用意するなどなるべくわかりやすい表現をして自分で決める場面を作るようにしている。安心相談員が月に1回訪問してくれる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、散歩や買い物、畑仕事、手芸など希望に合わせて一人ひとりの個性のある支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	市内の美容院と契約していて2ヶ月に1度ヘアカットに来てくれる。その際本人の好みを聞いてカットしてくれる。行事のときはお化粧やおしゃれをするなど、普段と違う楽しみを持ってもらう。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りは利用者と一緒に作るように心がけている。家族や近所からもらう野菜や山菜のこしらえをして食卓にのることが多く、喜ばれている。 季節の漬物作りは、毎年の恒例行事となっている。	メニューは法人の管理栄養士が立てている。ぼた餅・漬物・笹寿司・梅干し・きやらぶきなど、季節や行事を大切に分量に応じて出番づくりされており、野菜の皮むき、茶碗ふきなども利用者をお願いしている。ホームの庭ではカボチャやスイカが作られている。また、焼き芋会も楽しみにしている。食事形態は個々に合わせ刻みなど食べやすい工夫がされており、声掛けしながら一部介助などの支援が行われている。誕生日かそれに近い日に希望メニューを聞いているが、最近では赤飯を希望する方が多く、3時のおやつにケーキでお祝いをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは栄養士が立てたものを使っているが、食材は旬のものを多く取り入れ、家族や近所からの頂き物の野菜や果物も多い。厨房からのミキサー食の提供も受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者一人ひとりの口腔内の状態を把握しており、食後に全利用者の口腔ケアを実施している。毎月1回以上、歯科衛生士の訪問で口腔ケアの指導を受け、全員の口腔内の衛生を保てるように努めている。夜間は入れ歯を預かり消毒している。		

グループホームコスモスプラネット篠ノ井

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄管理表を使い、一人ひとりの排泄の様子をチェックして、訴えや尿意のない利用者には、時間でトイレ誘導をして、失敗を減らし、自立を促すように、個別に支援している。	個々の排泄管理表により排泄パターンを把握しており、様子を見ながら声掛けトイレ誘導をしている。車いす利用の方が増えつつある中、布パンツの方、自立している方もいる。多くの方がリハビリパンツや夜間のみパットを併用しており、メーカーよりサンプル取り寄せ一人ひとりに合うものを検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は、排便が不規則だと体調も精神面も大きな影響が出ることを理解している。毎日毎夕の運動、散歩、食事面でも水分と食物繊維の多い食品を取り入れたメニュー、乳製品の摂取などに心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は曜日を指定して行っている。大型浴槽なので、仲の良い人同士でゆっくり入ってもらいように配慮している。重度の利用者もあり、2人介助で入ってもらっている利用者もいる。	基本的に入浴は週2回予定している。浴槽が大きく2人で入浴することもある。男子利用者は少ないため1人ずつとしている。車いすの利用者には、2人介助するなど安全に気配りしている。入浴を拒否された時には、声掛けの時間や職員を変えるなどして入浴していただいている。菖蒲湯・ゆず湯なども行い季節感を大切にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は散歩やレクリエーションなどで過ごしてもらい、昼寝も休める人には休んでもらうが、眠れない人は本を読んだり個々に過ごしてもらい。夜はTVを見て過ごされ、寝たい時に休んでもらう。寝れない時は温かい飲み物の提供で穏やかに寝付けるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師による服薬指導を月1回以上受けており、一人ひとりの内服薬の内容を理解している。服薬もその人の様子により、見守りか介助かを見極めて支援し、症状の変化があったら申し送りして伝達し、受診につなげている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理、裁縫、編み物、塗り絵、花の手入れなど得意分野を活かした活躍の場面があり、雑巾縫いで地域や学校、幼稚園との交流でプレゼントするなど楽しみがある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気や体調に合わせて外に出る機会をなるべく多くとるようにしている。毎日の散歩や外気浴、テラスでのお茶の時間等。デイサービスの車を使って、不定期で思い掛けないドライブは喜ばれている。	近くに大きな公園と住宅街にあるこじんまりした公園の2ヶ所があり、天気や体調に配慮し散歩している。玄関ポーチでお茶を楽しまれることもある。隣接の有料老人ホームの7段飾りのお雛様の見学やホームとの合同運動会にも参加し、気分転換をしている。法人内のデイサービスの車を予約をしておく運転手付きで外出への協力も頂け、花見などの外出を願ひし、出来る限り外気にふれるように支援している。	

グループホームコスモスプラネット篠ノ井

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時に小遣いとしてお金を預かり、出納簿で管理している。トラブル防止のために職員が管理しているが、近所のコンビニへ買い物に出かける利用者もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者や家族の希望で電話を掛けたい時は取次ぎをしている。手紙は必要により代筆することもあり、本人の意欲につながるように積極的に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアは南向きに大きく開放されていて日当たりが良く明るい。テーブルには季節の花があり、玄関横の花壇には花が植えてある。畑にはスイカやさつま芋の栽培をしていて収穫は皆でにぎやかに行う。外出や行事の写真、グループホーム便りも大きく印刷して飾ったり、利用者には喜ばれている。	玄関を入ると直ぐリビングで、壁には利用者の習字やちぎり絵などの作品が飾られている。廊下には外出した時の写真や毎月発行発行されているホーム便りなどが掲示されており、利用者の日々の生活を窺うことができる。廊下を挟んで両側に居室となっているため、利用者の様子がすぐ分かるようになっている。お風呂も大きく、また、ゆったりとしており、利用者が2人で入ることもある。洗い場は床暖で寒さを感じず気持ち良く利用でき、エアコンで過ごしやすい温度に管理されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア以外にも利用者が一人で過ごしたり、利用者同士でおしゃべりできる場所がある。時にはお茶を提供したりして落ち着いた場所と時間が提供できるように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、馴染みの物等を持ってきてもらうことの説明をしている。居室に家族との写真を貼ったり、作品を飾ったりして、自分の部屋として落ち着く場所の工夫をしている。	居室の壁紙と床、カーテンなどが3パターンの色や柄に分かれており、変えていることで隣同士の居室を利用者が間違えたりトラブルにならないように工夫されている。家族の写真や手造りカレンダーなど思い思いに貼られたり、テレビなども自由に持ち込まれ、一人ひとり、居心地よく過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口に名前が貼ってあったり、トイレや浴室の案内も判りやすく表示している。一人ひとり持つ力を見極めて必要に応じて物の配置や座席の位置を変えている。		